



# NEWS LETTER vol. 20



これからの地方自治・地方政策を考える  
**連続自治体特別企画セミナー** (KPIセミナーに名称変更を検討中)

## 第1回セミナー

文化庁文化芸術創造都市振興室 共催企画

神山発！日本の田舎をステキに変える  
 ～アートとITによる未来の働き方～

7月23日(木)

◇KPIセミナー 16:00～17:00 (受付開始15:30)

場所 京都府職員研修・研究支援センター2F 視聴覚室

大南信也氏 (NPO法人グリーンバレー理事長) による講演

参加無料

◇クリエイティブCafé 17:30～19:30 (受付開始17:15)

場所 京都府立大学稲盛記念会館1Fたまごカフェ

第1部 大南氏と佐々木雅幸氏 (文化庁文化芸術創造都市振興室長) による対談  
 第2部 意見交換会

会費2,000円

### 連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナーに名称変更を検討中) 年間計画

- 第1回 7月23日(木)
- 第2回 8月20日(木)
- 第3回 未定
- 第4回 11月26日(木)
- 第5回 1月28日(木)

今年度も原則木曜日開催を予定しております。

詳細が決まり次第、ニュースレターやHP、Facebookなどでご連絡いたします。

### 後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学  
 京都政策研究センター  
 〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

Tel & Fax : 075-703-5319

mail : [kpiinfo@kpu.ac.jp](mailto:kpiinfo@kpu.ac.jp)

人口約6,000人のまちで、日本で初めてアドプト・プログラム(沿道の住民が区間を決めて道路の清掃などを手掛ける取り組みのこと)を実践したり、全国からITベンチャーやアーティストが続々と集まり、「神山アーティスト・イン・レジデンス」や「神山バレー」を形成したりと、ともかく全国から、最近では世界からも注目される創造的過疎のまち「徳島県神山町」。その仕掛人がNPO法人グリーンバレー理事長の大南信也さん。合言葉は「やったらええんちゃう?」「日本のふるさとをステキに変える」。今回は「神山発！日本の田舎をステキに変える～アートとITによる未来の働き方～」と題して、京都府立大学で地域創生の最前線のお話をして頂きます。

そして、後半は文化庁の「クリエイティブCafé」と共催し、わが国の創造都市づくりを支援している佐々木雅幸文化庁文化芸術創造都市振興室長(同志社大学経済学部特別客員教授)と対談いただきます。

### クリエイティブCaféとは

関西でまちづくり、文化や産業などの様々な分野で、悩みを抱えながら、現場で日々奮闘している人たちが集まり、自由に語り、聴くことを丁寧に積み重ね、新たな創造へつなげるプラットフォームを形成し、課題の解決を目指すことをコンセプトに、市民、行政・NPO、学生等多様な立場で文化、芸術、産業等にかかわる“人”と“人”とが交流し、対等な立場で議論することにより、創造的な課題解決のできるアイデアの醸成と人材の育成につなげるものです。

## 第2回セミナー

地方自治体におけるオープンデータの活用

8月20日(木) 15:00～17:15 (受付開始15:30)

場所 京都府立大学稲盛記念会館1階106講義室

講師 牧田泰一氏(鯖江市役所 政策経営部 情報統括監)

林 雅之氏(国際大学グローバル・コミュニケーション・センター客員研究員)

近年、ますます急ピッチで進む情報化の波は、国、自治体等が保有する膨大な公共データのビジネス活用等の期待を高めるに至っています(オープンデータ活用)。平成25年6月に閣議決定された「世界最先端IT国家創造宣言」にオープンデータ活用推進が位置づけられています。オープンデータは、公共データの民間等による二次利用を推進し、官民の情報共有による多様な公共サービスが効率的に提供されること、さらに新ビジネスの創出や自治体における政策決定等に公共データを用いた分析等が容易になる等の効果が期待されています。

本セミナーでは、福井県鯖江市情報統括監 牧田泰一氏と国際大学グローバルコミュニケーションセンター客員研究員 林雅之氏をお招きし、公共データのオープンデータ化の実践例に学ぶとともに、自治体にとってのオープンデータの効用、各地における取り組み事例、国際的な動向等について議論を進めたいと思います。ぜひご参加ください。

\*詳細・お申込はKPIのホームページ・Facebookをご覧ください。





共催セミナー

## 「人口減少問題と地方自治体—東京—極集中からの脱却—」を開催しました



去る6月7日に本学で日本公共政策学会が開催され、KPIも学会2日目に企画された共通論題Ⅱ「人口減少問題と地方自治体—東京—極集中からの脱却—」を共催しました。

当日は名古屋大学の後房雄先生のコーディネートのもと、消滅可能性都市の可能性に言及したいいわゆる「増田レポート」を書かれた本学客員教授である増田寛也先生、地方自治論が専門の福島大学の今井照先生、元日本経済学会会長で慶応義塾大学教授の樋口美雄先生、町村問題に詳しいNPO法人ローカル・グランドデザイン理事の坂本誠さんにパネラーとして登壇いただきました。

なかでも人口減少社会等といった問題の立て方自体についてのそのもその議論や、増田レポートが提案している「選択と集中」をめぐる規模観の議論などは、正解がない中で多様な意見が多く飛び出し、非常に刺激的かつ活発な議論となりました。

最後に、今回の企画は単発企画ではありましたが、本年度京都政策研究センターでは連続自治体特別企画セミナー（KPI）でこの「地域創生」をテーマに連続セミナーを企画しています。ぜひ1年間通じて皆さん一緒に考えていきませんか。（企画調整MGR杉岡秀紀）



受託研究

## 京都府との協働研究が決定しました



KPIでは毎年京都府との協働研究を実施しています。今年度は以下の3つのテーマについて協働研究を実施します。

- ① 税外債権管理と生活困窮者支援に関する調査研究（協働研究先：総務部自治振興課）
- ② 地域力再生交付金の効果に関する調査研究（協働研究先：府民生活部府民力推進課）
- ③ 次世代型人材育成推進組織のあり方に関する調査研究  
（協働研究先：農林水産部経営支援・担い手育成課）

## 宮津商工会議所との受託研究が決定しました

昨年度までの4年間、KPIでは地域貢献型特別研究（ACTR）として宮津市・宮津商工会議所との関わりを構築してきましたが、今年度は受託研究として、「中心市街地活性化に向けた市民共創まちづくり業務」を行います。昨年度に引き続き、コーディネーターとして宮津商工会議所が主催するワーキンググループに参加し、計画策定や計画の実現・実行に向けた検討のお手伝いをします。

ACTR

## 大山崎町・久御山町・舞鶴市とのACTRが決定しました



KPIの教員が応募し採用された地域連携センターの地域貢献型特別研究（ACTR）について、今年度も研究支援をしていきます。

- ① 歴史遺産を活用した観光振興を図るための提案・観光による商業振興と町の活性化（大山崎町）
- ② 舞鶴市における今後の地域コミュニティのあり方に関する調査・研究  
～市民サービスとしての廃棄物施策の見直しを通して～（舞鶴市）
- ③ 地域の絆づくりのための地域資源発掘・整理と、町民ワークショップによる学ぶ場の創出  
（久御山町）

\*今年度から、KPIの新しい事業として「地域協働オープンワークショップ」を開催しており、①の大山崎町での活動を開始しました！

## 男女共同参画推進室のACTRに取り組みます

男女共同参画推進室の教員が応募し採択された「府下の男女共同参画に関わるステークホルダー（行政・経済団体・NPO・大学）等のパートナーシップのあり方の調査」に、昨年に引き続き、KPIは共同研究者として取り組むこととなりました。

（左）地域協働オープンワークショップではまず大山崎町にいき、町内を案内していただきました。写真は大山崎町と島本町の境。「都落ち」の場所の1つです。

（右）下鴨サロンの様子。下鴨サロンは京都府職員と大学教員とのぎくばらんな政策議論の場です。前回の講師は生命環境科学研究科の宮藤先生でした。

## KPIリレーコラム

今回は、KPI事務局長の菱木先生が登場です！

### 「アイスランドで見た銅像」



京都府立大学  
公共政策学部公共政策学科准教授

菱木 智一

昨年の5月に、京都府からの実務家教員として着任してから早くも14か月が過ぎました。

先の年末年始には、「世界一平和な国」「世界一安全な国」と言われるアイスランドへ行ってきました。

アイスランドというと「氷の国」を連想しますが、メキシコ暖流が近くを流れているため、1年を通じて緯度の割には寒くない気候だそうです。

この国は、海底火山が隆起して海面に顔を出した状態で国土となった火山島であり、岩石の塊のような土地ですので土壌は痩せていて作物は育ちにくく、基本的には暮らしにくい土地です。

しかしそのことがかえて人々相互の助け合いを必要とし、また狭い島国（面積は北海道と四国を合わせた大きさ）で人口も少なく（約32万人）可住面積が限られていることから、人間関係も自然と濃くなり犯罪が少なく、また、軍隊を持たないことから先のように呼ばれているそうです。

その国の中心部にある広場にあった銅像ですが、ある職業を表しているとのことですが、何の職業かわかりますか？

上半身の岩は「国土」を表しており、それを支えている体・手足という意味だそうです。

もうわかりましたね。「公務員」です。

私もこの大学で得られる限りのものを手に入れて、この銅像が象徴しているような決意で今後の公務員人生を前進していきたいと思います。